

みなお通信

高崎市議会議員 高橋美奈雄

＜市政相談連絡先＞

〒370-0041

高崎市東貝沢町2丁目32-6

TEL&FAX 027-363-2733

E-mail: minao.t@jcom.home.ne.jp

3月市議会定例会報告

平成24年第1回市議会定例会は、2月24日から3月19日までの25日間の会期で開かれました。本定例会では、平成24年度高崎市一般会計、9特別会計、上・下水道事業会計の各予算、包括外部監査契約の締結について、高崎市都市集客施設建設基金条例の制定についてなどの議案の審議を行い、いずれも原案のとおり可決しました。

3月の市議会は新年度予算を議決する重要な議会で、市長の施政方針や財務部長の提案説明を受けた後、会派の代表者による総括質疑を行い、市長が答弁しました。また、各分野の事業説明については、4つの常任委員会において詳細に審議が行われました。

＜平成24年度予算関係報告＞

一般会計予算は、前年度比1.9%減の1,532億5,000万円（前年度比30億4,000万円の減）、特別会計、企業会計を合算した予算総額は、2,495億3,892万円となりました。

『既存事業の縮小・廃止及び徹底した事業費の削減』、『重点事業の積極的な推進』、『人件費の圧縮』の3つを基本方針の柱とし、約150項目にわたる経費見直し等により歳出総額の削減に努めるとともに長期的な視野に立ち、重点事業等に財源を配分しています。

首都圏と北陸・上信越をつなぐ役割を担い、都市間競争を勝ち抜くための政策を展開し、市民の皆様が毎日の生活や仕事に安心感を持てる市政を目指した予算と言えるでしょう。

東部地域の発展のために！

★ 東部小学校体育館建設事業

平成24～25年度…設計 25～26年度…解体・建設工事

★ 東部公民館改築事業

平成24年度…建設工事、旧館解体設計

平成25年度…開館、旧館解体工事



三月定例会

市政に対する一般質問

一般質問は、四日間にわたり二十八人の議員が行い、高橋みなお議員は、二日目に登壇し質問しました。以下、概要を報告します。

集客都市高崎の実現に向けた都市戦略について

質問 次世代に向けた集客力のある都市づくりについては、都市集客戦略、ビジョンを基に新たな構想を策定するというが、現状は。

答弁 ビジョンを深化させた「新しい高崎」で、文化・経済・自然が融合して相乗効果を発揮する都市の実現に向けた取り組みを進め、産業機能の立地と集積を図っていく。

質問 都市の魅力を発信できる都市機能の充実には、高崎駅を核とした公共交通ネットワークの構築が課題と考えるが見解は。

答弁 公共交通機関を有機的に結びつける二次交通のネットワークを整備し、より高い次元の選択性・利便性を提供する必要がある。鉄道、バス、タクシーなどを移動のための都市インフラと考え、便利な都市型交通機関としてのシステムを構築していきたい。

質問 これからは補完性の原則に基づいた他都市との連携を視野に入れた取り組みが

求められている。都市型交通機関のネットワークシステムへの取り組みは。

答弁 交通の基本的機能は、わかりやすさ、行先の明確化、定時性の確保である。便利に乘換えや移動できる環境づくりをデザインし、観光やビジネスの視点においても強化していきたい。

質問 連携の枠組みを超えた都市間協働には、都市戦略の検討が必要である。各地域が魅力度や利便性を競うことで発展に繋がれると認識しているが、前橋との連携も含めた都市間協働の考え方は。

答弁 都市の発展には、総合的な政策立案、スピード感のある取り組みが必要である。前橋市とは今後も連携事業や人事交流を継続し、施政方針に掲げた施策を積極的に展開していきたい。

質問 東京100km圏の地方にあっても再度経済力と文化力と政治行政力を確立し、東京圏に対峙できる条件を整備する必要があるが、このような現象をどのよう

答弁 東京30km圏と仙台・新潟などの政令指定都市の狭間にある都市空洞化の恐れが指摘されていることは認識している。観光や産業のピーアールによる新たなニーズの掘り起こしや、奨励金制度による企業誘致・首都圏のバックアップ機能誘致による雇用創

出など、国内外から多くの人が集まる魅力ある都市の創造を目指していく。

「災害対策に関する要請書」市長へ提出！

☆ 高橋みなおが委員長を務める、災害対策特別委員会では、この一年間の活動を通して、市民を取り巻く厳しい状況や今後の防災対策の一層の強化と対応を望むべく、三月十九日、市長に要請書を提出しました。(5項目の要点を掲載します)

- ① 地域防災計画の作成にあたり、市民との共通認識を図れるよう努力すること。
- ② 防災教育の一層の充実を図ること。
- ③ 風評被害に対するさらなる支援を実施すること。
- ④ 放射線の定点観測や学校給食の検査を継続し、全市民が情報を入手できるように配慮すること。
- ⑤ 瓦礫の処理を可能な範囲で、市民の安全を確保した上で受け入れること。

後記

大震災から一年を経た現在でも、津波からの復興・福島島の再建など、被災自治体の再生にはまだ時間がかかりそうです。

このような状況の中、選抜高校野球大会開会式での、石巻工業高校主将の力強い選手宣誓には、日本中の方が大きな感動と勇気をもたらしたのではないのでしょうか。

既に次の大舞台を目指して、連日練習に励む高校球児の姿を見ていると、自然と元気がわいてくるのは私だけではないことでしょう。